

<平成28年度 ハローオリピズム事業>

# オリンピック教室

実施報告書

千葉県 銚子市立第三中学校





現行の学習指導要領は平成21年（2009）4月に公示され、中学校「保健体育 体育分野」及び高等学校「科目 体育」における「体育理論」の領域で、文化としてのスポーツやオリンピック・ムーブメントの意義を学ぶことが明確化されました。そこには、中学校3年生の保健体育の「体育理論」の学習内容に、「オリンピックや他の国際的なスポーツ大会等は、国際親善や世界平和に大きな役割を果たしていること」とオリンピックの意義が明示されております。

これを受けて日本オリンピック委員会（JOC）では、平成23年度（2011）から、体育理論の学習に先がけ、その内容を事前に啓発する目的で中学校2年生を対象に、「ハローオリンピズム事業」の一つとして、授業形式で行う「オリンピック教室」を実施しております。

近代オリンピックの創始者ピエールド・クーベルタンは、人間本来の資質を高めるために、スポーツと文化と教育の側面を持つオリンピックの価値を広めることが相応しいと考え、オリンピック・ムーブメントを推進してきました。JOCもこの価値を若い世代に語り継ぐことは、極めて重要で大切な活動と考えております。日本代表として実際にオリンピックに出場した選手（オリンピック）は、その栄誉を自覚し、競技面だけでなく社会生活の上でも、模範となる行動が求められております。このようなオリンピックがその価値を直接生徒に伝えることで、日頃の授業では味わうことの出来ない感動が生まれることも期待しております。

「オリンピック教室」の授業は、教師役のオリンピックが、オリンピック大会出場に至るまで、あるいは、実際にオリンピック大会に出場して得た貴重な経験等を通して、「エクセレンス」、「フレンドシップ」、「リスペクト」、「努力から得られる喜び」、「フェアプレー」、「他者への敬意」といったオリンピックの価値（バリュー）及びオリンピック精神の教育的価値等を伝えます。また同時に、この価値がオリンピックに出場した選手だけのものではなく、多くの人々が共有し日常生活にも活かすことのできるものであること、さらに、こうした考え方があるからこそオリンピックに価値があることを生徒自身に学習してもらうこともねらいとしております。

平成23年に施行された「スポーツ基本法」の前文の一部に「スポーツは、世界共通の人類の文化であり、次代を担う青少年の体力を向上させるとともに、他者を尊重しこれと協同する精神、公正さと規律を尊ぶ態度や克己心を培い実践的な思考力や判断力を育む等人格の形成に大きな影響を及ぼすものである」との記述があります。生徒のみなさんが「オリンピック教室」で学習する内容は、まさにこの基本法に記された精神や態度等を日常生活の中へ具現化することを後押しするものであると考えています。



- 実施目的** : オリンピアン（オリンピック出場経験アスリート）が教師役となり、オリンピアン自身の様々な経験を通して「オリンピズム」や「オリンピックの価値」等を伝えると同時に、この価値はオリンピアンだけのものではなく、多くの人々が共有し、日常生活にも活かすことの出来るものであることを授業を通して学習してもらう
- 名 称** : JOCオリンピック教室
- 主 催** : 公益財団法人 日本オリンピック委員会
- 後 援** : スポーツ庁
- 協 力** : 公益財団法人JKA、開催地自治体及び同教育委員会
- 対 象** : 中学2年生
- 講 師** : オリンピアン（オリンピック出場経験アスリート）  
※派遣オリンピアンはJOC側にて選定
- 期 間** : 平成28年4月～平成29年3月 ※原則、平日開催
- 実施校数** : 40校程度
- 実施方法** : クラス単位を基本とし、2コマで1セットの授業

1時限目  
運動の時間（50分）



2時限目  
座学の時間（50分）



※学校の通常の授業時間をベースに実施

※運動の時間と座学の時間の間に10分の休憩時間があります。



## 1時限目

### 運動の時間

オリンピックの専門競技の技術指導（＝スポーツ教室）ではなく、  
運動が苦手な生徒も参加できるように工夫されたもの

挨拶（5分）

準備運動（10分）

主運動（30分）

まとめ（5分）



自己紹介  
今日の学習内容の確認



準備運動



主運動  
（作戦タイム等を受け、  
生徒が考える機会を作る）



運動の授業のまとめ

※時間は目安です  
※内容はオリンピックによって多少変動する場合がございます

## 2時限目

国際オリンピック委員会（IOC）が推進する「オリンピックの価値」等を、  
オリンピックがオリンピック競技大会出場に至るまで、あるいは実際に  
オリンピック競技大会に出場した経験等を通して、分かり易く伝えると  
同時に、生徒自身が自分ごととして捉え、今後に活かせるような学習内容

### 座学の時間

挨拶・自己紹介（10分）

オリンピックの価値を伝える（10分）

グループワーク（20分）

まとめ（10分）



学習内容の確認



写真・映像等を使用  
した自己紹介



オリンピック自身の経験に  
基づく「オリンピックの価値」等  
を伝える



グループ（個人）ワークで  
話し合った内容を発表



全体のまとめ/記念撮影

※時間は目安です  
※内容はオリンピックによって多少変動する場合がございます



- 期 日 : 平成28年6月21日 (火)
- ク ラ ス : 2年1組 (30名)
- オリンピック : 鶴岡剣太郎先生 (スキー・スノーボード)
- 授業のながれ : 運動の時間 (1時限)

## 1. 自己紹介～授業の目的確認



## 2. 準備体操



・鶴岡先生から自己紹介した後、オリンピック教室ではオリンピックについて学びながら、どんな気持ちが沸いてくるかを感じてほしい。特に今日の授業で「探る」をテーマに進めていくので、オリンピックバリューとオリンピックの関連も探ってみよう授業の目的を伝える。運動の授業では、①全力で取り組む、②仲間と相談して協力する、③ルールを守って人の話をよく聞くことを守るという3つを約束し、準備運動に入る。

## 3. 主運動



・3チームに分かれて8の字跳びを全3回実施。90秒以内に連続して跳んだ回数を競う。各回終了後、回数と工夫した点を各班から発表する。  
 ・全員跳びを実施。生徒から「全員で数えたらタイミングが合うのではないか」という意見が出たため、再度チャレンジすると、連続13回跳ぶことができた。  
 みんなで一丸となって目標を目指したことを拍手で称える。

## 4. まとめ



・授業を振り返って、生徒からは達成感があった、疲れた＝全力でやった、団結できたなどの感想が挙がり、鶴岡先生から、授業の冒頭約束した3つのことが守れていたからこそ、様々な工夫もみられ、全力で取り組むことで表情も変化していたと伝える。次の座学の時間は、日常とオリンピックバリューがどのように関係するかをさらに掘り下げて考えてみよう予告し、運動の時間を終了。



■ 授業のながれ： 座学の時間（2時限）

1. 自己紹介と授業の目的を確認



2. オリンピックの価値を伝える



- ・オリンピックと日常生活を繋げて考えてみようとする目的を確認。オリンピックのイメージについて問いかけると、世界から人が集まって競い合う、有名人になる、トップクラスと戦える場、見ただけでわくわくできる大会、歴史がある、4年に1度のイベント等の意見が挙げられた。
- ・鶴岡先生の現役時代の写真を見せながら、自身が感じたオリンピックバリューについて説明。

3. グループワーク



- ・班毎に運動の時間で感じた自分たちにとってのオリンピックバリューを考える。
- ・エクセレンス：全力でやりきった、目標を持つ、負けたくないという気持ち、チャレンジ精神、
- フレンドシップ：励ましたり声を掛け合う、協力して仲間を信じる、協力する、まわりのみんなを気遣うことができた、
- リスペクト：ミスをしたとしても励ましあうことで新しくチャレンジできた、苦手な部分をカバーしサポートする、ルールを守る、みんなに感謝する、他のチームに敬意をもつ等の意見が挙げられた。

4. まとめ



- ・今日学んだオリンピックバリューは、日常生活や困難なことに基づいた時にこそ役に立つ考え方だと思う。これからの人生において上手いかない事があってもあきらめずに全力でぶつかってほしい。また、1964年東京大会、開会式時に紹介されたクーベルタンの言葉を画面で紹介しながら、スポーツにおいて勝敗も大切だが、一番大事な事はそこに向かうまでの本気度と如何に努力したかである。今後は、困難な時こそこのオリンピックバリューを思い出してチャレンジしてほしい。何事も本気でやれば、なりたい自分になれること、そして最後に、周りの友達に思いやりをもって接していこうと伝え、授業を終了。



■ 集 合 写 真

2年1組



■ 記 念 品 贈 呈



■ 証 明 書 贈 呈

